

令和8年度 徳島県立名西高等学校(定時制課程)学校評価総括評価表

1. 学校教育目標

- (1)心身ともに健全で人間尊重と助け合いの精神に満ちた、社会に貢献できる人間の育成に努める。
- (2)勤労と学業の両立を図り、進んで諸問題を解決しようとする自主的・自発的な姿勢を持つ人間の育成を図る。
- (3)生徒と教師相互の温かい人間関係を深めるとともに、個別指導の一層の充実を図り、基礎学力の向上に努める。
- (4)家庭と学校との連携を密にし、規則正しい生活習慣の確立と就労の指導を推進し、望ましい生活態度の育成に努める。
- (5)命を大切に教育を推進し、交通安全教育に努める。

2. 本年度の重点目標

- (1)基本的生活習慣の確立と自律的態度の育成。
- 「働きながら学ぶ」生活リズムを整えるとともに、主体的な学習姿勢を定着させる。
- (2)多様な実体験を通じた社会性と再挑戦する心の育成。
- 学校行事等の体験活動を通じて視野を広げる。失敗を成長の糧と捉え、他者と協調しながら物事を最後までやり遂げる粘り強い態度を養う。
- (3)当事者意識を高める安全・防災教育の推進
- 災害時等に自らリスクを判断し、行動できる力を育てるとともに、自らの命を守る主体性を高める。

徳島県立名西高等学校定時制課程

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
「基本的生活習慣の確立」 「自律的態度の育成」	(全校レベル) I) 個に応じた支援を実践し、生活習慣の確立と基礎学力の向上を図る。 (下位組織レベル) ① キャリア教育を推進する中で、生徒の進路意識を明確にし、学習能力・態度を高める。 [進路課・生徒課] ② わかる授業を実践するとともに、個々の生徒の学力について共通理解を図り、支援の方策を探る。 [教務課・進路課・各教科] ③ 読書習慣を定着させ、情報活用能力を育む。 [教務課・特別活動課・情報科]	評 価 指 標	評価指標の達成度	総合評価	
		I) 授業出席率90%以上。(R7 93.4%) 遅刻する生徒の割合5%以下。(R7 2.0%)			
		①-1 進路指導における関連機関等と連携し、進路講演会等のキャリア教育行事を実施。年間2回以上。(R7 実施回数3回)		(所見)	
		①-2 アルバイト等校外での活動をしている生徒の割合60%以上。(R7 63.2%)			
		②-1 電子黒板や生徒用タブレット端末などのICT機器を活用した授業の割合90%以上。(R7 90%)			
		②-2 授業評価、学校生活に関するアンケート等の結果を基におこなう学力検討会の実施回数。年間3回以上。(R7 実施回数3回)			
		②-3 教員相互の授業参観。各学期に1回以上(R7 各学期に1回実施)			
		②-4 授業評価による生徒の理解度・満足度の向上。理解度75%以上、満足度85%以上。(R7 理解度78.6% 満足度86.9%)			
		③ ホームルーム活動等図書室を利用する。各クラス年間3回以上			
		活 動 計 画	活動計画の実施状況		
		I) 生徒の実態について共通理解を図り、個に応じた支援を検討し、実践する。			
		①-1 生徒の進路実現に向けて、進路講演会等のキャリア教育行事を系統的に実施する。			
		①-2 アルバイト等校外での活動を推奨し、社会性を身につけさせる。			
		②-1 電子黒板や生徒用タブレット端末などのICT機器の積極的・効果的な活用を心掛け、主体的で対話的な授業を目指す。			
		②-2 学力検討会を実施し、生徒の学力について 共通理解を図り、支援の方策を探る。			
		②-3 教員相互に授業参観を行い、他教科における生徒の理解度を把握し、授業改善に役立てる。			

		②-4 授業評価の結果を分析し、授業方法の改善やわかる授業の実践に役立てる。				
		③ 生徒が読書にいきなり習慣づくりに努め、図書館の利用促進をはかる。				
「多様な実体験を通じた社会性と再挑戦する心の育成」 「当事者意識を高める安全・防災教育の推進」	(全校レベル) I) 生徒の人間関係構築力や社会性の育成を図り、自他を守る社会規範を身に付けさせる。 (下位組織レベル) ① 異年齢間の交流や社会体験などを多く経験させる。 [各学年・特活課] ② 校外での活動を推奨し、地域との繋がりを感じさせる。 [各学年・特活課] ③ 個に応じた指導を実践する。 [各学年・特別支援コーディネーター] ④ いじめを防止する。 [各学年・生徒課] ⑤ さまざまな人権問題に対する意識を向上させる。 [各学年・人権教育課] ⑥ 防災教育を充実させる。 [各学年・環境教育課] ⑦ 主権者意識を高める教育を推進する。 [公民科・各教科]	評 価 指 標	評価指標の達成度	総合評価		
		I) 4月に比べ、よりよい人間関係を構築でき、社会性が向上したと考える生徒の割合、90%以上 (R7 83.8%)				
		① 学校行事への満足度80%以上 エシカルクラブ活動に対する生徒の理解度・満足度の向上80%以上。 (R7 理解度81.1% 満足度89.2%)		(所見)		
		② 地域に貢献するボランティア活動の実施。年間2回以上。(R7 実施回数1回)				
		③ 生徒の状況についてケース会議など、共通理解を図る機会の設定。				
		④ 学校全体でいじめを許さない雰囲気づくりを行い、アンケート実施により現状把握を行う。 (R7 いじめ発件数0件)				
		⑤ 人権問題に対する意識が向上し、態度や行動に移せたと回答した生徒の割合60%以上。 (R7 89.2%)				
		⑥ 防災訓練・避難訓練の実施年間3回以上。 (R7 4回)				
		⑦ 政治や選挙、暮らしや社会との関わりへの関心が高まったと感じる生徒の割合80%以上 (R7 83.8%)				
		活 動 計 画	活動計画の実施状況			
		I) 生徒一人一人の特性等について共通理解を図り、人間関係構築力や社会性の育成を目指した指導を実践する。				
		① 魅力ある学校行事を実施し、より多くの生徒に異年齢間の交流や社会体験を経験させる。				
		② 学校行事や生徒会活動のなかで清掃活動を実施し、地域に貢献する意欲を高める。				
		③ 特別支援コーディネーターを中心に、特別な支援を要する生徒について共通理解を図る機会を設けるとともに、SCの助言等を聞きながら、個に応じた指導が実践できるようにする。				
		④ いじめに関するホームルーム活動を行い、アンケートを実施する。				
		⑤ 人権問題に関するホームルーム活動や講演会等の行事を系統的に行い、アンケートを実施する。				
		⑥ 停電時を想定した訓練など、夜間定時制における効果的な防災訓練や避難訓練を実施する。				
		⑦ 公民科を中心として各教科の授業や学校行事で主権者教育を実施する。				

【備考：「総合評価」における「評定」の基準】 A:十分達成できた、B:概ね達成できた、C:達成できなかった